

ロジックモデル ◆若い世代定住プロジェクト

施策	具体的取組	事業	短期成果(事業の成果)	中期成果(具体的取組の成果)	長期成果(施策の成果)			
1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり	(1)若い世代が魅力を感じるゆとりある住環境の促進	ゆとりある住環境整備事業	ゆとりある住環境の実現のため、菜園付き住宅などの立地を誘導する。	みどりに包まれた豊かな住環境が整う。	身近にみどりや公園など自然と触れ合える住環境が整う。	市民の暮らしの満足度が高まり、市に住みやすさを感じる若い世代が増える。 ⇒定住人口が維持され、持続可能なまちになる。		
		公園施設環境整備事業	利用者に配慮した環境を整備するため、公園施設の長寿命化を計画的に実施する。	公園施設の安全性が向上する。				
		都市公園等整備事業	一人当たり公園緑地面積が不足する市街化区域に公園を整備する。	公園の整備により防災機能に加え、にぎわいや交流の場が整う。				
	(2)定住を希望する若い世代の支援	近居推進事業	移住を促進するため、近居・同居を目的として移住した人の住宅取得などを支援する。	転入時の経済的負担が軽減され、転入者が増加する。	若い世代の移住・定住が促進される。			
		若い世代定住促進奨学金事業	大学生の定住のため、奨学金を貸し付け、一定条件を満たせば返済不要とする。	進学時の経済的負担が軽減され、定住希望者が増える。				
	(3)地域資源を活用した魅力ある暮らしの促進	情報集約・発信支援事業	市の魅力の見える化のため、官民連携のプラットフォームから地域情報を発信する。	さまざまな地域資源が集約され、市内外に市の魅力を伝える機会が増える。	市民が様々な地域資源に触れる機会が増える。			
		フォトプロジェクト事業	写真というツールを活用して、新たな市の魅力を発見し、触れる機会をつくる。	市民が写真を通して市の魅力を再認識し、魅力の発信者になる。				
	2 働く場を生み出すまちづくり	(1)工業団地などへの就業支援	雇用労働支援事業	就業を支援するため、工業団地の認知度向上や、就職フェアの開催などを行う。	求人と求職のマッチングが図られ、雇用環境が安定する。		多様な産業構造が構築され、安定した雇用が確保される。	若い世代にとって魅力ある産業や雇用が整い、職住近接が進む。 ⇒ゆとりあるライフスタイルを実現できるまちになる。
			企業誘致推進事業	産業振興と雇用促進を図るため、企業誘致活動を展開する。	市内に進出する企業が増える。			
(2)異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援		異業種・異分野間交流・連携事業	産業の活性化のため、異業種・異分野の交流・連携の機会をつくる。	様々な分野等との交流・連携が進む。	多様な連携により技術革新や新産業の創出が進む。			
(3)起業希望者に対する相談・支援	創業支援事業	創業を支援するため、関係機関と連携したワンストップ相談を行う。	創業を希望する者が市内で創業する。	創業者が継続して安定的な事業活動を展開する。				
3 子育てしたくなるまちづくり	(1)利便性の高い場所での保育機会の確保	待機児童対策事業	子どもを安心して育てる環境を整えるため、待機児童対策を進める。	保護者がニーズに応じた保育サービスを受けられる。	働きながら子育てしやすい保育環境が整い、安心して子どもを預けることができる。	子育てや教育に関する不安が軽減され、地域全体で安心して子育てや教育ができる。 ⇒白井で子育てしたいと思う人が増加し、年齢バランスを維持できるまちになる。		
		病児・病後児保育事業	仕事と育児の両立を支援するため、病児・病後児保育を行う。	子どもの病気時の保育に対する保護者の不安が解消される。				
	(2)子育てに係る経済的負担の軽減	子ども医療費助成事業	保護者の経済的負担の軽減、子どもの健康対策のため、医療費を助成する。	経済的理由にかかわらず、全ての子どもが受診できる。	子育てに対する経済的不安が軽減される。			
		(3)地域での親や子どもたちの居場所づくりや子育て支援のしくみづくり	子育て世代包括支援センター事業	妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援のため、子育て世代包括支援センターを運営する。	保護者のニーズに合わせたサービスを紹介できる。		親と子が家庭以外で地域に安心して相談し、過ごせる場所がある。	
	子どもの居場所づくり支援事業		地域で子育てを支えるため、子どもの居場所づくりを行う団体に活動費を助成する。	子育ての居場所づくりを支援する団体の活動が活発化する。				
	放課後児童健全育成事業		子どもの健全な育成を図るため、保護者が昼間家庭にいない小学生を保育する。	子どもが放課後を安心して安全に過ごすことができる。				
	放課後子ども教室事業		子どもの放課後の活動の場、地域で育まれる場を確保する。	子どもが放課後を安心して安全に過ごすことができる居場所ができる。				
	(4)確かな学力、豊かな心、健やかな体など未来を生き抜く力を育む学校教育の推進	補助教員配置事業	きめ細やかな教育を実施するため、補助教員を配置する。	一人一人に目の行き届いた教育が行われる。	子どもが学力向上などに主体的に取り組み、未来を生き抜く力が育つ。			
		地域人材活用事業	地域の実情や特性を生かしたきめ細かな教育を推進するため、人材の派遣などを行う。	子どもの関心・意欲が向上し、地域愛が高まる。				
		教育の情報化推進事業	子どもたちの学習環境を整えるため、PCの増設や無線LANの整備を行う。	ICTを活用して子どもの学力やICT技能が向上する。				

ロジックモデル ◆みどり活用プロジェクト



ロジックモデル ◆拠点創造プロジェクト

